

3月26日 名古屋港管理組合議会 3月定例会 江上博之議員

名古屋港のしゅんせつ土砂処分計画 中部国際空港沖の埋立優先、環境破壊を進める計画は中止を

名古屋港管理組合3月議会が3月26日～30日に行われ、江上博之議員が「中部国際空港沖への名古屋港のしゅんせつ土砂の処分」について質問を行いました。

名古屋港のしゅんせつ土砂3800万^mの処分をなぜ中部空港沖に計画したのか

国土交通省中部地方整備局は2月2日、中部空港沖を名古屋港のしゅんせつ土砂の処分地として埋め立てる「中部国際空港沖公有水面埋立承認願書」を愛知県に提出しました。

これに関連し、港湾計画の変更が報告されました。しゅんせつ土砂約3,800万^mを名古屋港外の中部国際空港沖公有水面埋立計画地に処分できるようにする変更で、空港島の西部や南東部の約290haを埋め立てる計画です。このうち空港島西隣接地は中部国際空港第2滑走路予定地となっており、15年で埋め立てるものです。

名古屋港のしゅんせつ土砂は 年間60万^mのうち大型事業で45万^m

名古屋港のしゅんせつ土砂は、今年度見込みで約60万^m。そのうち、港の維持しゅんせつのために約15万^m、残り約45万^mは、名古屋港大水探岸壁建設に伴う泊地や航路のしゅんせつによるものです。名古屋港のしゅんせつ土砂は、港の維持しゅんせつ以上に開発のためのしゅんせつが3倍近くになっています。

港湾計画の変更で現行処分予定地を変更

今回変更する港湾計画は、しゅんせつ土砂の処分として2027年ぐらいまでに4070万^mを現ポートアイランド

の周辺や南側、南5区第2期工事予定地域などを埋立予定地としているものを、新たに名古屋港の外にある中部国際空港押公有水面に土砂約3800万^mを埋め立てる提案です。

未利用地でなく、なぜ中部空港沖か

現港湾計画にあるポートアイランド周辺や南側、南5区第2期工事予定地で埋め立ては行われていません。江上議員は「現計画で埋め立ても行われていないにもかかわらず、なぜ、今回の処分地増設を行うのか。なぜ、空港島周辺を最優先で埋め立てするのか」と追及しました。企画調整室長は「埋立計画が直ちに事業化できるものではない。中部地方整備局は、港内には大規模な土砂処分場を計画する余地がないと判断した。新たな処分場を複数の候補地から比較検討し、市民の意見や学識者の第三者委員会の助言を踏まえ、中部国際空港沖を選定した」と答えました。



質問する江上議員
(ホームページの中継録画より)

名古屋港の外で土砂処分を行う環境破壊だ

埋立事業で予測される漁業への影響等に関して、愛知県水産業振興基と三重県水産振興事業団へ基金を拠出します。江上議員は「管理組合が拠出しなければならない理由は何か」とただしました。企画調整室長は「港湾施設の維持は港湾管理者の本来の仕事であり、事業者の通部地方整備局が漁業補償を行い港湾管理者として基金を出した」と答えました。

江上議員は「漁業を安心して営むためなら自然破壊を行うべきではない。必要性も不透明な大型事業のための埋立計画は認められない」と批判しました。

中空沖への新たな埋立土砂の内訳

| 区分 | | 土砂(万 ^m) |
|--|------------------|---------------------|
| 港湾機能の強化や維持等により発生する土砂 | 港湾機能の強化により発生する土砂 | 400 |
| | コンテナ取扱機能の強化 | 500 |
| | バルク貨物取扱機能の強化 | 300 |
| | 名古屋港ポートアイランド仮置土砂 | 2,000 |
| 中長期的に必要な港湾機能の維持により発生する土砂(維持浚渫:30万 ^m /年×20年) | | 600 |
| 合計 | | 3,800 |

